

第57回試験研究成果発表会（野菜Ⅴ・花植木Ⅱ）発表概要

【日時】令和2年2月14日（金）10:00～16:25

【会場】農林総合研究センター 暖地園芸研究所 大会議室
（館山市山本1762）

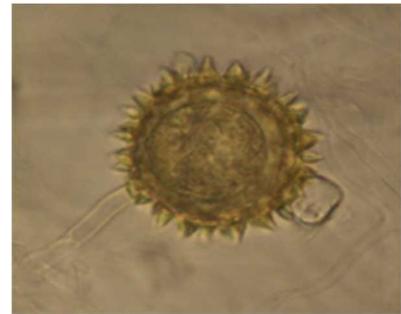
発表1 成果発表（10:10～10:35）

ヒマワリ根腐萎縮病の防除法 ―病原菌の動態と発病要因から考える―

生産環境研究室

久保 周子

ヒマワリ根腐萎縮病はなぜ土壌消毒しても発生するのか、またなぜ寒い時期に発生するのかなど、本病害の様々な疑問について検討しました。ここではこうした疑問にお答えしながら、防除のポイントを病原菌の動きと発病の要因から解説します。



ヒマワリ根腐萎縮病菌の蔵卵器

発表2 情報提供（10:35～10:55）

マルチ栽培によるキンセンカ疫病の防除

生産環境研究室

久保 周子

キンセンカ疫病は、キンセンカ栽培で問題となる重要な病害の一つです。登録薬剤が少なく、防除に苦慮する本病害に対し、マルチ栽培の発病抑制効果が高いことを確認しましたので、その効果について紹介します。



キンセンカ疫病の病徴

発表3 成果発表 (10:55~11:20)

新しい防護柵「集落柵」で集落のイノシシ被害を減らそう

生産環境研究室

松村 広貴

近年、集落柵という新しい防護柵の設置が増えてきました。集落柵は農地だけでなく家屋や道路等も守るため、農地だけを守る慣行の防護柵より効果が劣る可能性があります。そこで、集落柵のイノシシ被害軽減効果を慣行の防護柵と比較検証したところ、集落柵の方が効果が高いことが明らかになりました。また、農地に限らず集落全体のイノシシ出没が減少する利点がありました。集落柵の被害軽減効果と利用上の注意について紹介します。



山沿いに設置された集落柵

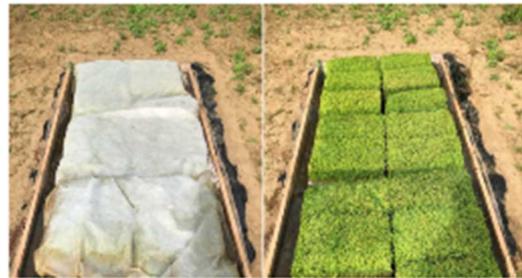
発表4 成果発表 (11:20~11:45)

露地プール育苗 –育苗ハウスを用いない「コシヒカリ」稚苗育成技術–

水稻温暖化対策研究室

鈴木 聡史

露地プール育苗は、育苗ハウスを用いない育苗技術です。水を張ったプールを用いて露地で育苗管理するため、従来の育苗における灌水作業の省力化が可能です。「コシヒカリ」稚苗を育成する場合、3月26日~4月1日に播種し、ポリプロピレン製不織布2枚がけで露地プール育苗を行うと、4月20~25日に移植可能な稚苗を育成できます。ここでは、実際に行う際の方法や注意点について紹介します。



露地プール育苗の様子

休憩 (11:45~13:00)

発表5 成果発表 (13:00~13:25)

大豆在来種と市販品種を組み合わせたエダマメの長期連続出荷体系

野菜・花き研究室

深尾 聡

大豆在来種を活用したエダマメ生産では出荷期間が10月~11月の数週間と短いことが課題となっています。そこで、産地としてのエダマメの長期連続出荷を可能にするため、無加温ハウスを使った大豆在来種の11~12月出荷の栽培方法について試験を行いました。また、県南地域において4~9月出荷で収量が安定する市販品種の選定を行いましたのでご紹介します。



エダマメ試験の様子

発表6 情報提供 (13:25~13:45)

緑肥作物の上手な利用方法

土壌環境研究室

岩佐 博邦

野菜産地では、土づくりや線虫対策など様々な目的で緑肥作物が利用されています。緑肥作物の利用においては、植物体を腐熟させずに土壌にすき込み、土壌中で分解させるという特徴があります。緑肥作物を上手に利用するためには、その分解特性を把握する必要があります。そこで、緑肥作物の種類・生育状況などが、すき込み後の分解に及ぼす影響を明らかにしました。



アウエナ・ストリゴサ
(エンバク野生種)「ヘイオーツ」

発表7 成果発表 (13:45~14:10)

紫外光照射によるイチゴのうどんこ病及びハダニ類の防除

生産環境研究室

大坂 龍

紫外光照射と光反射シートを組み合わせてイチゴのうどんこ病とハダニ類を同時に防除する技術を開発し、農薬の使用回数を大幅に削減することができました。一方、シートを設置すると地温が下がり、生育に悪影響が出る品種もあります。そこで、シートの設置面積を減らしたり、シートを設置せずに天敵を用いた場合でも十分な防除効果を確認できたので、結果について紹介します。



夜間に紫外光照射を行っているイチゴ圃場

発表8 情報提供 (14:10~14:30)

イチゴ栽培における環境制御技術（環境モニタリングと生育状況等の確認）の検証

山武農業事務所

改良普及課

武内 理香

イチゴ栽培において、収量や品質の向上を図るためには、ICT を活用した環境制御技術の導入が効果的であると考えられますが、導入事例は多くありません。そこで、日中炭酸ガス施用と併せて環境モニタリング装置やネットワーク定点カメラを導入し、実証試験を行いました。その結果について紹介します



イチゴハウスに設置した環境モニタリング装置

休憩 (14:30~14:45)

発表 9 成果発表 (14:45~15:10)

移植栽培を組み合わせたナバナの安定生産技術

野菜・花き研究室

小林 由里奈

ナバナは台風や長雨によって適期に播種ができないと、出荷の遅れや減収が問題となります。そこで、天候に大きく左右されずに初期生育を確保するために、移植栽培の試験を行いました。その結果、移植栽培でも、直播栽培と同等の収量を確保できることが明らかになりました。



移植栽培のナバナ

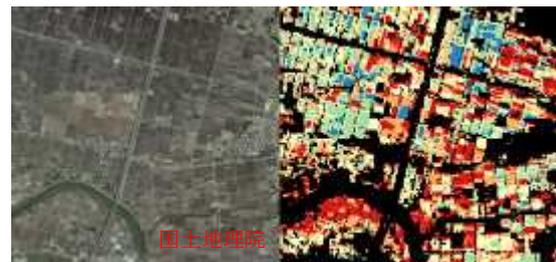
発表 10 情報提供 (15:10~15:30)

地域及び圃場レベルでの水田輪換畑排水性評価法

土壌環境研究室

山本 幸洋

レタス、食用ナバナ、ブロッコリーなどを栽培できる水田輪換畑の排水性評価法を地域レベルと圃場レベルで提案します。地域レベルの排水性は、衛星画像と圃場の地下水位を基に作成した乾湿区分図により相対的に評価します。圃場レベルの排水性は、表面排水性を地表や排水口等の標高により、浸透排水性を耕盤層等の飽和透水係数や貫入抵抗値の分布により評価します。



衛星画像 (左) と圃場の乾湿区分図 (右)

発表 1 1 成果発表 (15:30~15:55)

新しい防護柵「集落柵」で集落のイノシシ被害を減らそう

生産環境研究室

松村 広貴

(発表 3 と同じ)

発表 1 2 成果発表 (15:55~16:20)

露地プール育苗 –育苗ハウスを用いない「コシヒカリ」稚苗育成技術–

水稻温暖化対策研究室

鈴木 聡史

(発表 4 と同じ)